



■「居心地のいい環境では自分は成長しない」

2学期の始業式から、約1か月が経ちました。近頃、1年生～3年生の授業を見て回っていると、授業中に寝ていて起こされる人、起きてはいるけどボーっとしている人、忘れ物や提出物が出せていないなど、少しずつ気のゆるみが見られます。それ以外でも、頑張るべき時に頑張れない人も増えてきているように思います。

そうした中、つい最近、世界最高峰のアメリカのバスケットリーグ NBA で活躍している八村塁選手がインタビューの中で発したある言葉を聞いて、「ああ、今の子どもたちに足りないのは、こういう考え方だ!」と、すごく納得したので、ここで紹介します。

【インタビューの概要】

バスケ人生14年間で最もつらかったことを聞かれた時に八村選手は、失敗とか苦しいことがあることによって、それを乗り越えることで、自分がだんだん強くなると思っている。



「居心地が悪いのを居心地よくする、

居心地がいいと思う時は成長していない、と頑張って来た。」

この言葉を聞いて、学校生活や私生活の様々な場面で、自分はどのように頑張って来たか振り返ってみてください。

辛いことや嫌なこと、困難に直面すると「逃げる」を選択しがちですが、その選択は「将来の自分に対する借金」でもあります。その借金は自分の成長を妨げているので、社会に出た時、苦勞することにもつながります。これは勉強・人間関係・クラブ活動など、様々な場面で言えることではないでしょうか？

この、「居心地の悪い環境を、居心地よくするための努力」が出来る人間に、ぜひなって欲しいと思います。

